

令和7年度 第2回東海村地域計画検討会 摘録

1	開催日時	令和8年3月18日(水) 18時00分から19時40分まで
2	場所	東海村役場 101・102会議室
3	出席者	<p><令和7年度第2回東海村地域計画検討会> 委員 大内 静夫, 埴 政道, 飛田 浩光, 照沼 哲也, 鴨志田 妙子, 佐藤 宗一, 大内 晴夫, 渡邊 正幸, 柴田 夏実, 萩谷 英之, 加藤 史歩, 埴 紀昭, 菊池 敬 オブザーバー 雨谷 はるい 14名</p> <p><東海村農業政策課> 津野田 仁, 加藤 隆志, 大内 剛史, 照沼 光讓, 根本 かほり 5名</p> <p><東海村農業委員会事務局> 鷹野 光寿, 佐藤 千春 2名</p>
4	欠席者	柏村 学, 照沼 勝将
5	公開又は非公開の別	公開
6	非公開の理由	
7	議題	<p>(1)報告 令和7年度 協議の場（地域座談会）及び地域計画検討会部会の活動報告について</p> <p>(2)議 事 令和7年度東海村地域計画（計画書及び目標地図）の変更について</p> <p>(3)意見交換</p>
8	配布資料	別添のとおり
9	摘 録	<p>(1)報告 令和7年度 協議の場（地域座談会）及び地域計画検討会部会の活動報告について ・資料に基づき説明。 <質疑応答> なし。</p>

(2) 議 事

令和7年度東海村地域計画（計画書及び目標地図）の変更について

・資料に基づき説明。

<質疑応答>（◆：委員の意見 ◇：事務局）

◆資料2-1の(2)農地転用・農振除外に伴う軽微な変更・実質的な変更について、既に除外されているという認識で良いか。

◇そのような認識である。

◆変更に伴い、農地への影響はあったか。

◇ない。

◆今回の検討会をもって地域計画の変更ということで良いか。

◇良い。

◆計画の中の「地域計画の区域の状況」で数値が小数点以下3桁まで記載しているものがある。そこまで細かい数値を計画上に記載する必要があるかは検討の余地があるかもしれない。

◇意向確認の際に各位置付け者に申請いただいた面積をそのまま掲載している。今後、小数点以下をどこまで掲載するか検討したい。

◆今回新規就農者が3名計画に位置付けられたが、1年間で離農した方はいないのか。

◇いない。

令和7年度東海村地域計画について挙手多数により承認された。

(3) 意見交換（◆：委員の意見 ◇：事務局）

◆管内9市町村の地域計画の進捗管理を確認してきたが、地域によって実情が異なることから、これが良いという方法はないように感じている。ただ、その中でも一歩先に進んでいる市町村は全体を進めていくのではなく、動きがある地域に絞って進めていこうとする事例が多い。今回東海村の活動を色々と報告いただき、部会の活動は素晴らしいと思った。大人数での集まりでは、本音を引き出すことは難しくなってしまう。集まりを少人数で開催し、出た意見を地域計画に結びつけるのは大変なことだが重要であると思う。現時点で飛びぬけた優良事例はないが、小さなことから少しずつ進めていくことが良いと思う。

◇小さなことから進めていくという点では、座談会などでも農業者同士の話し合いが進み、農地交換に繋がれば良いと思っているが、なかなかその部分は進まない。地域計画の目的の1つである農地の集積・集約を進めていくという点で、うまく集積・集約が進んでいる事例やポイントなどがあったら紹介してほしい。

◆各地域に出向いて状況も確認しているが、なかなか集約化に向けての進みはない。やはり基盤整備事業が進んでいる地域では、集約化に結びつけられる事例もあるが、基盤整備事業が進んでいな

い地域は難しいのが現状である。

- ◆基盤整備主体という実情はありつつ、管内では、多面的機能支払交付金の組織において、自分たちで話し合い、集積・集約を進めている事例や、地域外の担い手を呼び、その方に集積したという事例もある。少しずつ進んでいると感じる部分もある。
- ◇農業委員会では農地中間管理事業を担当している。令和7年度は316筆、約43haが農地中間管理事業を利用したものとなっている。現状の契約としては、1,600筆、約210haが農地中間管理事業を活用したものとなっている。ここから4～5年の間には400haほどが農地中間管理事業を活用したものになると予想される。農業委員さんにも契約時に協力いただくなどしながら、集積・集約に繋がるように、農地中間管理事業の面積を増やしていこうとしているところである。
- ◇一方、担い手をどのように育成、確保するかも問題になっていく。その部分の事例が何かあれば教えてほしい。
- ◆東海村、ひたちなか市、那珂市に関わっている中で、担い手についてはどの地域も新規就農に力を入れたいという意気込みはあるが、なかなか苦労している。那珂市では担い手の受け入れを積極的に行う、「MIRAI」という組織を立ち上げた。茨城県の認定研修機関としても登録されている。その制度を使い、1名が研修を受けている。
- ◇東海村でも農業支援センターで就農相談を受けており、毎年1人程度認定新規就農者として就農している。一方でこうした新規就農が地域に円滑になじむためには、地域内に知り合いが少ないことなどが課題となっている。今後は関係者の連携を強化し、新規就農の方をチームでサポートしていきたいと考えている。那珂市の事例などを参考に、東海村で就農したいという方を増やしていきたい。
- ◆自分は田んぼの担い手だが、担い手の年齢は年々上がっている。真崎浦の担い手はここ10年で半減している。10年後にどの方が残るか分からない。場所によって区画整理が済んでいるところもあり、そのような場所は効率よく作業ができる。村でも区画整理をやっていくということだが、時間がかかっても実施した方が良く考える。地域計画の話から以前より話がまとまってきたと思うので、ぜひ実行してほしいと思う。
- ◆若い方はさつまいも、干し芋の農家が多く、それぞれ話し合いで集約・集積していると思う。ほしいも協議会などの集まりが活用できれば、話し合いがしやすいと思うので、田んぼの担い手に関してもそのような集まりがあれば良いと感じる。田んぼの担い手も若い人が出てくるのを期待したい。区画整理して作りやすくするのは良いが、その後作付けする人が続かなければ無駄になってしまう。既存の農家は農業が儲かるということを見せていき、新規就農する人が増えていけば良いと考えている。地域計画関連で

座談会等をやっても毎回同じような意見で、問題は出るが集まっても何も進まないとなると悪循環になってしまう。ほしいも協議会や田んぼの集まりのように集まって話し合いを続けていれば何かは進むはずなので、続けていくのが良いと思う。

◆東海村の農業予算が増えないという話を聞くが、来年度の予算は増えているのか。

◇令和5年度からの流れとして、地域計画を作り、その後農業振興計画を作った。その取組の中でも大きな課題である集積・集約を進めていくという観点から、意向確認がある程度できている地域について、1,500万円程の予算をつけている。これは再圃場整備に取り掛かるための予算となっている。今回は真崎浦を想定しているが、他の地域でも圃場整備に取り掛かっていくための話し合いなどは進めていきたいと考えている。産業部の予算は減っていない。部署が多いわけではないが、しっかりと予算は確保している。

◆全国的に田んぼの金属製蛇口の盗難が相次いでいる。今年に入って村内全域において被害が出ている。金属製からプラスチック製への交換を勧めるなど注意喚起はしているが、個人的な事情があって交換しない方もいる。真崎浦周辺では約100か所、東海環周辺では約180か所被害にあっており、収まる心配がない。出水時期になっても、盗難が収まらないのではないかと戦々恐々としている。日中のパトロールや通報強化をしているが、一番の対策は蛇口の交換しかない。実際の被害時間帯は夜中から明け方にかけてではないかと思うが、地域の方々にも不審な人がいたら通報してほしいと伝えている。また、先日大山下周辺で火災があった。休耕田であり、不審火扱いとなったが、通報があったため、幸い燃え広がらずに済んだ。出火原因がはっきりしておらず、やり切れない部分はあるのだが、情報提供させていただく。

◆バルブの件は東海環周辺では約180件の被害があった。現在、業者に依頼して補修を進めているが、4月の頭には用水試験もあるので早めに対応したいと思っている。バルブの盗難は地権者が知らない所で発生していることもある。耕作者任せにしている、耕作地に対して無関心な地権者が多いことが分かった。また、親が亡くなり、名義変更しないで登記しているケースが多く、連絡がつかない例もある。農業委員会と調整しながら密にやっけないといけない。集約・集積については、耕作者を含めて話し合いをしながら進めていきたい。山際など耕作がしづらい場所は耕作者が張り付かず、耕作放棄地になってしまう恐れがある。多面的機能支払交付金の活動を利用して、遊休地や耕作放棄地対策を継続してやっていきたい。

◆高齢化に伴って、自分たち自身もあと何年田んぼが作れるか分からない部分がある。新規就農者を増やす活動をぜひお願いしたい。多面的機能支払交付金活動の話になるが、その活動の力です

いぶん荒れ地がきれいになってきた。引き続きよろしくお願ひしたい。

- ◆須和間地区でも80代の方が農業をやっており、跡継ぎがないことが問題になっている。地域計画では、5年後、10年後の話をしているが、このような取組を知らない人もいる。一般の方にも内容が分かるように周知活動をしてほしいと思う。バルブについては、新川エリアでも盗難があったが、自分で対応するしかなかった。真崎浦は土地改良区で対応してくれたので安心している。
- ◆JAとして集積・集約に直接的に役に立ってはいないかもしれないが、やれることをやっていきたいと思う。担い手から水稻の相談を受けて手伝ったりもしている。また、期間限定ではあるが、土壌診断もやっているのでお声かけいただきたい。
- ◆甘藷に関しては、加工用も生芋も今は問題ないかもしれないが、米は今後も農家の方々が安心して生産できるようになれば良いと思っている。ここ何年かの価格高騰で少し作る方も増えたのかもしれないが、まず価格面で作る魅力がないと続かないと思うので、JAとしては情報提供等できることをやっていきたいと考えている。
- ◆JAで学校給食に有機野菜を取り入れたいと言っていると思うが、今回新規就農で有機農業に興味がある方がいらっしゃるので、安定的にJA出荷ができるようにサポートしてほしいと思う。

以上